第1ステップ ▶ B

はっそうのくんれん

おうちの方へ

これからの社会に必要な、個性的で独創的な発想力を養うための練習を行います。ことばから映像を思い浮かべ、それをことばにしてもっと別の解釈、もっとおもしろい発想を探す。このような訓練が個性を育て、発想を豊かにし、文章力をつけることにつながります。

この種の問題の場合、答えは一つではありません。ここに示す答えのほかにもたくさんの答えがあるでしょう。ですから、お子さんが答えを出したら、ほかの答えも考えるように誘導してあげてください。ここに示す答えとかけ離れていても、否定しないであげてください。

もんだい1

文章を読む力をつける問題

頭の中でそうぞうして、れいのように、（　）の中にすきなことばを入れて、そのようすが目に見えるような文にしましょう。正しい答えは一つだけではないので、いくつか考えましょう。

答えは、べっさつ1ページ

おうちの方へのアドバイス

文章を読む力とは、文章から情景を思い浮かべる力のことです

文章を読み取る力を養うには、情景を思い浮かべ、それをことばにする作業が最も有効です。情景をことばにすることによって、ことばの力を知ることができます。そして、さまざまな発想をすることで、空想力が高まります。お子さんがある情景を思い浮かべても、さらに別の情景も考えさせ、それをことばにさせて、発想力を高めるように促してください。

【もんだいのれい】車が、（　　）走っている。

【答えのれい】ゆっくりと／のろのろと／ものすごいスピードで／ライトをつけて／山道を／スピードいはんして

1 虫が、（　　）とんでいます。

2 花火が、（　　）上がりました。

3 もらったプレゼントを、わたしは（　　）あけました。

4 ぼくがゲームであそんでいたら、お母さんが（　　）おこりだしました。

⑤ わたしのおじいちゃんは、新聞を（　　）読みます。

⑥ かみなりが、（　　）鳴った。

⑦ ぼくはプールに（　　）とびこんだ。

⑧ 先生は、いつもろうかを（　　）歩く。

⑨ 公園で、犬が（　　）走り回っている。

⑩ 赤ちゃんが、（　　）わらっている。

もんだい2 重なりことばを考える問題

（　　）の中に、「いろいろ」「ぽつりぽつり」「カーカー」のような、くりかえすことば（かさなりことば）を入れましょう。答えは一つだけではないので、いくつか考えましょう。

1. ボールが（　　）と、ころがってきた。
2. かいじゅうが（　　）と、歩いています。
3. 雨が（　　）と、ふっています。

答えは、べっさつ2ページ

おうちの方へのアドバイス

重なりことばは理解しやすいため、子どもたちはゲーム感覚でことば遊びに興じます

重なりことばを考える問題を通して、語彙が増えるだけでなく、発想力が豊かになります。目に見えるように情景を思い浮かべるようになります。同時に、ことばを一つ加えることによって、読み手に情景を思い描かせられることを知るようになります。

ここに取り上げた問題や、この後にも取り上げるこの種の問題を参考にしていただいて、このような重なりことば遊びをおうちの方がしてあげると、お子さんの国語力は飛躍的に伸びることでしょう。

④ こまが（　　）と、回っています。

⑤ お父さんが（　　）と、町を見ています。

⑥ 水道のじゃ口から、水が（　　）と、おちています。

おぼえよう！

カタカナで書くことば

つぎのことばは，ふつうカタカナで書きます。

①どうぶつの鳴き声

ワンワン，ニャーニャー，ブーブーなど。

②外国からきたことば（外来語と言います）

ロケット，ケーキ，ピアノ，アイスクリームなど。

③外国の国の名前，土地の名前，人の名前

アメリカ，フランス，ロンドン，リンカーン，エジソンなど。

④いろいろな，ものの音

ザーザー，ガタガタ，ガチャン，ピーなど。

もんだい 3

修飾語の働きを理解させる問題

答えは、べっさつ 2ページ

れいのように、いろいろとそうぞうして、（　　）の中にことばを入れて、赤字のものがどんなものなのか、くわしくせつめいしましょう。答えは一つだけではないので、いくつか考えましょう。

【もんだいのれい】

魚が、（　　）池でおよいでいます。

【答えのれい】

広い／小さい／森の中の／ようせいの国の

おうちの方へのアドバイス

修飾語の働きを理解し、身につけてもらうための練習です

もちろん、小学校低学年の子どもに「修飾語」ということばを教える必要はありません。その概念を理解させる必要もありません。ただ、名詞を詳しく説明する働きをすることばがあり、使うことば（たとえば例題のように「広い」と「小さい」）によって、ことばから喚起される情景がまったく異なることをわからせる必要があります。そうしたことばを知ることで、ことばをいじる楽しみが増します。ことばに対する関心が増してくるはずです。

そうしたことを、この問題を通じて、理解してほしいと思っています。ここでは、「広い」「小さい」のような形容詞をはじめとして、名詞を修飾して、それを詳しく説明することば全般の練習をします。

❶ 近くの公園に、（　　）犬がいます。

❷ クマが、（　　）魚を食べている。

❸ 空に、（　　）雲がうかんでいる。

❹ あの人は、（　　）家にすんでいる。

❺ にげていったどろぼうは、（　　）男でした。

❻ ぼくはとても（　　）はこを、プレゼントにもらいました。

❼ 王子さまは、（　　）おしろに入りました。

ようすや、色、大きさなどをあらわすことばをつけると、くわしくわかるようになるよ。

8 わたしは、（　　）つくえをつかっています。

9 雨がふって、にわに（　　）水たまりができました。

10 お父さんは、（　　）本を読んでいます。

おぼえよう！

つかい方で，いみがかわることば

【ひらく】

①ドアをひらく。（あける）

②うんどう会をひらく。（行う）

【あう】

①先生にあう。

（人と出あう）

②交通じこにあう。

（よくないことに出あう）

③答えがあう。（正かいする）

④ふくのサイズがあう。

（ぴったり当てはまる）

【晴れる】

①空が晴れる。

（天気がよくなる）

②心が晴れる。

（心がさわやかになる）

もんだい4

空想力を養う問題

答えは、べっさつ2ページ

（　　）の中にことばを入れて、おもしろい話になるようにしましょう。答えは一つではないので、いくつか考えましょう。

1 わたしがプールでおよいでいると、ひろしくんが（　　）。

2 おばあさんが川にせんたくに行くと、（　　）。

3 お母さんが歩いていると、犬が（　　）。

おうちの方へのアドバイス

おもしろい話を作る練習問題です

あったことを説明するだけでなく、自分で空想し、それをことばにして表現する問題です。

こうすることで、空想力が生まれ、ありきたりでない発想をするようになります。自分の発想に自信を持ち、それを表現したいという意欲も生まれます。

しかも、こうすることでことばの力を実感することができます。ことばの力によって、実際にはないものをありありと生み出すことができ、それを人に伝えることができるのです。こうして、ことばのおもしろさ、空想することのおもしろさを味わってほしいのです。

そのためには、お子さんの作った話があまりおもしろくなくても、ほめてあげてください。そして、次にはもっとおもしろい話を作れるように誘導してあげてください。ヒントをあげて、お子さんが自分で考えついたような気持ちになるように工夫してください。

お子さんと一緒に話を作って、どちらの話がおもしろいか競争するのもいいでしょうし、おうちの方の作ったお話に対して、おもしろいかおもしろくないかをお子さんに批評してもらうのもいいでしょう。おうちの方とお子さんの共作もいいでしょう。

4 妹のケーキをこっそり食べようとしていたら、
妹が（　　）。

5 じゅぎょう中、友だちに手紙をわたしていたら、先生が
（　　）。

6 お母さんの買ってきたシュークリームを食べていたら、
シュークリームの中から（　　）。

7 うらしまたろうが玉手ばこをあけると、
うらしまたろうが（　　）。

8 夜、空を見ていたら、とつぜん（　　）。

9 お父さんをえきまでむかえに行くと、
お父さんは（　　）。

10 こういちくんに、えんぴつをかしてあげたら、
こういちくんは（　　）。

11 となりの家でかわれている犬は、ぼくを見ると、
（　　）。

12 お母さんとおもちゃやさんの前を通ると、
お母さんは（　　）。

おぼえよう！

のばす音

口で言うとき「オー」「コー」「ソー」「トー」とのばす音は，書くときには「おう」「こう」「そう」「とう」と「う」をつかって書きます。

◎口で言うとき→書くとき

オトーサン→おとうさん

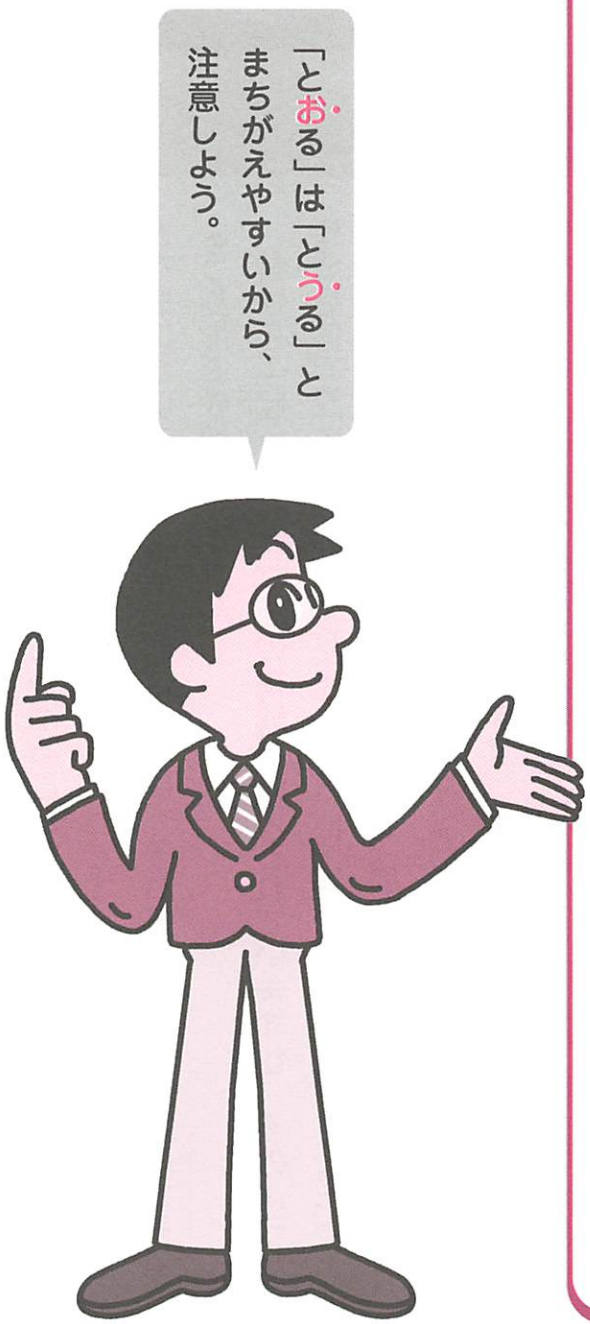
オーサマ→おうさま

ソージ→そうじ

コージョー→こうじょう

※とくべつに「おお」，「こお」，「とお」と書くことば

- トーイ →とおい
- オーキイ →おおきい
- オーイ →おおい
- トール →とおる
- コール →こおる
- オードーリ →おおどおり
- コーロギ →こおろぎ
- オーカミ →おおかみ



第1ステップ ▶ C

こうせいを学ぶ

おうちの方へ

文法を学び、発想力を身につけることが作文の基本ですが、もう一つ大事なことがあります。それは構成力です。どんなにおもしろいことを思いついても、構成力がなければ、それをほかの人に理解できるような形で表現できません。

昔から「起承転結」などの構成が伝えられていますが、そのような構成を体で覚える必要があります。それによって、作文を書くときにも、入試などで小論文を書くときにも役に立つ構成力が身につきます。

私たちは、「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」（左のコラム参照）という構成の形式を提唱しています。そうした構成がここで知らず知らずのうちに身につくように工夫しています。

なかには、「構成の形式を教えると、せっかくの子どもの個性を奪ってしまう。」という方がいます。しかし、構成ができないと、どんなにおもしろいことを考えていても、それを伝えることができないのです。

このような考えに沿って、ここでは構成力を身につけていきます。

作文の構成は「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」

「形式を気にすると、個性がなくなってしまう。」と言う人がいます。

戦後、日本の学校では、そのような考えに基づいて、作文の書き方も感想文の書き方もきちんと教えられませんでした。「自由に書けばいいんだよ。」「自分のことばで、書きたいことを書けばいいんだよ。」、そのように教えられてきました。

しかし、自由に書けと言われても書けないものです。むしろ私は、「自由に書け」という作文教育のために、日本人は作文を書けなくなってしまったと考えています。

なぜ、バッハやモーツァルトはあのような奇跡のような名曲をた